

B-16 ガードル素材の疲労寿命曲線
 東横学園女短大 ○岡村幸子
 日本セ大家政 芦沢昌子

目的 ガードルは近年、保形用、保温用の目的で、若年層から中年層迄に亘り広く用いられている。今実験を行なうに当り予備調査を行なった結果1人当りの所持数は2〜3枚であり、耐用年数は1〜2年である。この需要の多いガードルについて、日常の取扱い方によってその寿命が変わることが予想されるが、まず第1段階として、素材の異なる三種のガードル地について破裂試験により、その疲労曲線を求めた。又、繰り返し洗濯によるこれらの素材の疲労についても実験を行なった。

方法 定速伸長型破裂試験機を用いて、硬、柔、中程度のガードル素材(ナイロン・ポリウレタン)の破裂試験を厚布及び20回、40回の洗濯繰り返し布について行なった。

結果 1). 素材により疲労の応力範囲が異なる。 2). 洗濯試験により、ガードル素材の疲労に洗濯が影響を及ぼすことがわかった。 3). 着用実験ヒートアップテストとの応力関係についての知見を得た。

